

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第4部門第1区分
【発行日】令和6年7月4日(2024.7.4)

【公開番号】特開2023-37316(P2023-37316A)
【公開日】令和5年3月15日(2023.3.15)
【年通号数】公開公報(特許)2023-049
【出願番号】特願2021-143976(P2021-143976)
【国際特許分類】

E 0 1 C 5/02(2006.01)

E 0 1 C 7/12(2006.01)

E 0 1 C 7/26(2006.01)

E 0 1 C 7/30(2006.01)

【F I】

E 0 1 C 5/02

E 0 1 C 7/12

E 0 1 C 7/26

E 0 1 C 7/30

【手続補正書】
【提出日】令和6年6月26日(2024.6.26)

【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0026
【補正方法】変更
【補正の内容】

【0026】

次いで、水と、無収縮モルタルとを混合した後、これらを投入したグランドミキサーに、必要量の骨材を投入し、水と、無収縮モルタルとの混合物とともに混合することで、舗装材混合物を得る(図1の(C))。骨材としては、特に限定されないが、たとえば、平均粒径が3～6mm(乾式ふるい分け法)であるものを用いることができる。また、骨材としては、意匠性をより高めるという観点より、自然石類(小粒径自然石類;硬化前混合物層の表面に散布する自然石類よりも粒子径の小さなもの)を用いることが好適である。

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0031
【補正方法】変更
【補正の内容】

【0031】

自然石類としては、得ようとする自然石類含有舗装の意匠性に応じて、適宜選択すればよいが、鹿嶋砂利や、さなげ、大磯、紅などが挙げられる。また、自然石類の使用量は、使用する自然石類の粒径や、得ようとする自然石類含有舗装の意匠性に応じて、適宜選択すればよいが、たとえば、硬化前混合物層の表面に、好ましくは5～15kg/m²の量にて散布することが好ましい。また、自然石類の粒径は、好ましくは5～13mm(乾式ふるい分け法)である。

【手続補正3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0032
【補正方法】変更
【補正の内容】

【 0 0 3 2 】

次いで、自然石類を散布した硬化前混合物層について、必要に応じて、コテなどを用いて、表面調整を行った後（図 1 の（F））、表面のブラシ磨き、および、表面におけるモルタルの除去を行った後（図 1 の（G））、硬化させることで、自然石類含有舗装を形成することができる（図 1 の（H））。自然石類含有舗装の厚みは、歩道・軽交通道路として供用する場合には、4 c m 以上とすることが好ましく、また、車道・重交通道路として供用する場合には、7 c m 以上とすることが好ましい。自然石類含有舗装の厚みの上限は、特に限定されないが、好ましくは 1 0 c m 以下である。

10

20

30

40

50